

## 中学校 英語科 部会

部会長名 添田町立添田中学校 校長 井上 修一  
実践者名 大任町立大任中学校 教諭 吉田 大地

### 1 研修主題

「話すこと（やりとり）」から得た知識等を「書くこと」や「話すこと（発表）」に結びつけ、自分の考えを表現できる生徒を育てる中学校第2学年外国語科学習指導～「1分間チャット」と「シェアリング」の活用を通して～

### 2 主題設定の理由

『中学校学習指導要領解説外国語編』では、実際のコミュニケーションを目的として外国語を運用することができる能力の基礎を養うために、技能を統合して活用させる言語活動の充実が求められている。中でも、新学習指導要領で新たに設定された「話すこと（やりとり）」は、「即興性」を身につけるという観点から重要視されている。生徒の実態調査から、「話すこと（やりとり・発表）」「書くこと」は「聞くこと」「読むこと」よりも苦手意識が強いことが分かった。（図1）また、目標言語材料を用いた言語活動を仕組んでも、例文を読むだけに終始し、即興的なやりとりを行うことができなかった。その後の英作文においても、モデル文の単語を書き換えるだけに終わった。このような生徒の実態から、4技能5領域をバランス良く総合的に指導し、それらを統合的に活用できる生徒を育てる必要があると考える。これらの課題解決に向け、「話すこと（やりとり）」と「書くこと」「話すこと（発表）」を関連づけた授業を展開することが大変意義深いと考え、本主題を設定した。

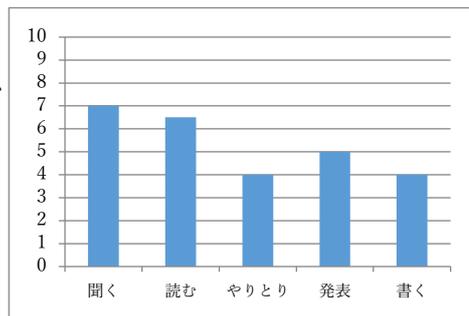


図1 1学期定期考査・パフォーマンステスト結果

### 3 主題・副題の意味

#### (1) 主題について

『話すこと（やりとり）』から得た知識等を『書くこと』や『話すこと（発表）』に結びつけ、自分の考えを表現できる」とは、生徒が、教師の提示したテーマについて即興的に「やりとり」をすることを通して、相手の考えや体験を自らのものと関連づけて知識等を精査し、再度自分の考えを導き出し、目標言語材料を正しく活用してそれらを「書き」、さらに「発表」することである。ここでの知識等とは、①主体的にやりとりすることによる思考・判断、②やりとりする相手の考えや体験、それを表現するために使っている文の構造パターン、語句や表現に関する知識・理解、③テーマに対する「自分の考え」を表現しようとする関心・意欲・態度の3つと捉える。

そこで、本研究で目指す生徒を次の4つの姿とする。

○あるテーマについての英語でのやりとりから得た知識等を、自分の考えを表現するために積極的に活用して書こうとする。【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

- あるテーマについての英語でのやりとりから、特に中心となる事柄など大切な部分について正確に聞き取ることができる。【外国語理解の能力】
- あるテーマについての自分の考えをまとまりのある英文で書き、話す（発表する）ことができる。【外国語表現の能力】
- 目標言語材料の文構造を理解し、正しい語順や語法を用いて文を構成する知識が身につけている。【言語や文化についての知識・理解】

## (2) 副題について

「1分間チャット」とは、教師から与えられたテーマについて、条件に従い、即興的に1分間英語でやりとりする活動のことである。例えば、テーマを「スポーツ」、条件を「目標言語材料不定詞を使うこと」とすると資料1のようになる。1年時には全くしたことのない活動であるため、最初からこのようなやりとりができることは望めない。しかし、この活動に取り組む目的を説明して意欲付けを図り、やりとりを円滑に進めるための挨拶や相づち英語を教え、訓練させれば、資料1のようにできるようになると考える。また、

資料1 1分間チャットの例

T: Let's start 1 min. Chat. Today's theme is "Sports".  
 You must use "to + verb". Make pairs. Leady go.  
 A: Hello, B. B: Hello, A. How are you?  
 A: I'm fine, and you? B: I'm hungry.  
 A: By the way, I want to talk about Sports with you.  
 B: Yes. I like to play soccer and I want to be a soccer player.  
 A: Nice dream. What do you want to try to be a soccer player?  
 B: I have many things to do. First, I must practice hard.  
 Second, I must eat too much. Third, . . .  
 A: Very good. I like soccer very much, too.  
 But I can't play soccer. I like to watch soccer on TV.  
 I'm a big fan of Doan Ritsu.  
 B: Me, too. Did you watch the yesterday game  
 between Japan and . . . T: Time is up.

1分間チャットのあとに、チャットでお互いが話した内容を全て書く活動を取り入れる。そうすることで、話した・聞いた内容を書く活動に統合できるとともに、記録されたことで、自分の考えを深めるためにも有効であると考えられる。

「シェアリング」とは、班での交流活動のことである。その目的は2つあり、1つは、1分間チャットの内容を書く活動において個人で記録した後に、その記録を班で共有させ、さらに自分の考えを広げるための材料とするためである。2つは、書く活動の際に、シェアリングを通して、文構造や語順、文の並べ方等を共有（教え合い）することで、書くことを苦手とする生徒でも主体的に書く活動に取り組むことができるようにするためである。

## 4 研究の目標

第2学年外国語科において、「話すこと（やりとり）」から得た知識等を「書くこと」や「話すこと（発表）」に結びつけ、自分の考えを表現できる生徒を育てるため、「1分間チャット」と「シェアリング」の有効性を究明する。

## 5 研究仮説

第2学年外国語科の単元指導計画に位置付けた「話す活動（やりとり）」と「書く活動」、「話す活動（発表）」において、「1分間チャット」と「シェアリング」を活用すれば、

「話すこと（やりとり）」から得た知識等を「書くこと」や「話すこと（発表）」に結びつけ、自分の考えを表現できる生徒が育つであろう。

## 6 研究の計画

### (1) 単元 World Heritages in Kyoto

～Heather 先生に京都でおすすめの世界遺産を紹介しよう～

(NEW HORIZON English Course2 Unit 5 Universal Design)

### (2) 単元の目標及び指導計画

単元	総時数	1 3 時間	時期	1 1 月
単元の目標	<p>○主体的に、京都でおすすめの世界遺産についての自分の意見や理由を表現しようとしている。【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】</p> <p>○接続詞 (if, that, when, because) が用いられた英文を聞いたり、読んだりして、その内容を理解することができる。【外国語理解の能力】</p> <p>○接続詞 (if, that, when, because) を用いて、自分の意見や理由を話したり、書いたりすることができる。【外国語表現の能力】</p> <p>○接続詞 (if, that, when, because) を正しく用いて、京都でおすすめの世界遺産について書くことができる。【言語や文化についての知識・理解】</p>			
次	学習活動・内容	指導上の留意点		評価基準
第一次 (4)	<p>○ALTのビデオレターを視聴し、単元名を考える。</p> <p>○接続詞 (if, that, when, because) の形・意味・用法を理解し、対話活動を行う。</p>	<p>○本単元を学習する目的意識をもたせるために、目標言語材料について紹介し、それらを用いてどのような言語活動ができるかを考えさせ、単元名を決定する。</p> <p>○本単元における相手意識をもたせるために、ALTのビデオレター（京都でおすすめの名所紹介の依頼）を視聴させる。</p> <p>○接続詞 (if, that, when, because) を用いた文の構造に気付かせるために、パワーポイントを使って例文を提示する。</p> <p>○「話すこと」と「書くこと」の技能統合を図るために、1分間チャットとシェアリングを取り入れる。</p>		<p>○接続詞 (if, that, when, because) を用いて主体的にやりとりをしようとしている。（関：ワークシート）</p>
第二次 (4)	<p>○教科書の本文の内容を理解し、その内容についての質問に答える。</p>	<p>○接続詞 (if, that, when, because) を含む教科書の本文の内容を理解させるために、Listening活動やReading活動（音読・黙読）を取り入れる。</p>		<p>○接続詞 (if, that, when, because) を含む教科書の本文の内容を理解することができる。（理：ワークシート）</p>
第三次	<p>○ALTが紹介する世界遺</p>	<p>○ALTの紹介文の内容についての理解を深めさせるために、Listening活動やReading活動</p>		<p>○ALTのアメリカの世界遺産紹介文を</p>

次 (5)	産の説明文を読む。	を取り入れる。	理解することができる。(理：ワークシート)
	○京都でおすすめの世界遺産紹介文作成の準備をする。	○世界遺産紹介文作成についての具体的なイメージをもたせるために、教師のモデル文を提示する。	
	○京都でおすすめの世界遺産をALTに紹介するためのスピーチ原稿を書く。	○書く活動を円滑に行わせるために、生徒に自分が紹介したい京都でおすすめの世界遺産を事前に考えさせ、紹介文作成に必要な単語を調べさせておく。 ○書くことが苦手な生徒を支援するために、モデル文を再度提示する。 ○個人で英作文に取り組むことが難しい生徒も意欲的に取り組めるように、シェアリングを取り入れる。	○主体的に、世界遺産紹介文を7文程度で書こうとしている。(関：ワークシート) ○接続詞を正しく用いて、世界遺産紹介文を7文程度で書くことができる。(表・知：ワークシート)
	○原稿修正後、スピーチの練習を行う。	○自信をもってALTにスピーチ形式で紹介させるために、個人で練習したあとに、ペアで発表練習をさせる。	
	○京都でおすすめの世界遺産をALTに紹介する。	○本単元を学習したことへの達成感を味わわせるために、ALTに京都でおすすめの世界遺産について英語で紹介させる。	○主体的に京都でおすすめの世界遺産をALTに紹介している。(関：様相観察) ○声の大きさや話すスピード、アイコンタクト、ジェスチャーを意識し、聞き手に配慮したスピーチになっている。(表：様相観察)

## 7 指導の実際

本時 平成30年11月16日金曜日 第6校時(第一次の1) 2年1組教室に於いて

### (1) 主眼

1分間チャットやシェアリングを通して、目標言語材料 if を正しく活用した即興的なやりとりをしたり、それらを英語で書いたりしようとしている。

### (2) 授業仮説

1分間チャットやシェアリングを活用すれば、目標言語材料 if の形・意味・用法を

理解し、それを活用することができるようになるであろう。

(3) 準備

- ① ICT 機器 ②ワークシート ③タイマー

(4) 展開

	学習活動・内容	指導上の留意点 (○)・評価 (◆)
導入	1 Warm up を行う。 ①あいさつ・曜日・日付・天気・時間 ②たてよこゲーム ③Q andA	○授業の雰囲気作りをするとともに、既習事項を想起させるために、3種類の活動を取り入れる。
15分	2 ALT のビデオレター（京都の名所紹介の依頼）を視聴し、単元名を考える。 3 if を使ったスキットから、本時の学習内容をつかむ。	○本単元を学習する目的・相手意識をもたせるためにビデオレターを見せた後に、目標言語材料について紹介し、それらを用いてどのような言語活動ができるかを考えさせ、単元名を決定する。 ○本時の学習内容への意欲付けを図るために、T1とT2でスキットを行う。
	Today's Goal : if の用法を理解し、友達とやりとりしたり、その内容を英語で書いたりしよう。	
展開	4 目標言語材料 if の例文を確認し、形・意味・用法をつかむ。 3 ①個人で考える。 0 ②ペアで話し合う。 分 ③全体で交流する。 5 パターンプラクティスを行い、表現に慣れる。 ・ If it's sunny, I play soccer. 6 1分間チャットを行う。 テーマ : Free Time 条件 : if を使う 7 チャットから得た知識等を書く活動を行う。 8 シェアリングを行い、自分の考えを広げ、書き加える。 ・ If I'm free, I watch TV. ↓ (書き加え) ・ If I'm free, I watch a tennis game on TV. I'm a member of a tennis club.	○if の規則性に気付かせるために、既習の接続詞と比較させる。 ○考えを深めさせるために、個人での気付きをペアや全体でシェアリングさせる。 ○目標言語材料を使った表現に慣れさせるために、電子黒板のスライドで何度も反復練習をさせる。 ○目標言語材料を使って即興的なやりとりをすることができるようにするために、1分間チャットを取り入れる。 ◆目標言語材料 if を正しく活用してやりとりをしようとしている。【ワークシート】 ○技能の統合を図るために、「話す」活動を「書く」活動につなげる。 ○自分の考えを深めるため、また、書くことが苦手な生徒を支援するためにシェアリングを取り入れる。 ◆目標言語材料 if を正しく活用してテーマについて書こうとしている。【ワークシート】

終 末 5 分	9 今日の学習を振り返る。 ①振り返りを書く。 ②次時の説明を聞く。 ③終わりのあいさつをする。	○if を用いたやりとりや書く活動に取り組む際に、 うまくいったことや、うまくいかなかったこと についての振り返りをさせ、次時の学習につなぐ。
------------------	---	---

## 8 研究のまとめ

「話すこと（やりとり）」から得た知識等を「書くこと」や「話すこと（発表）」に結びつけ、自分の考えを表現できる生徒を育てるために、「1分間チャット」と「シェアリング」が有効であったかどうかについて、以下2点から述べる。なお、本研究において実施した2回の実践のうち、不定詞を目標言語材料とした、「My Future Job」を実践①、本実践の「World Heritages in Kyoto」を実践②として2つの実践の比較で、生徒の変容から述べる。

### (1) 「1分間チャット」の有効性について

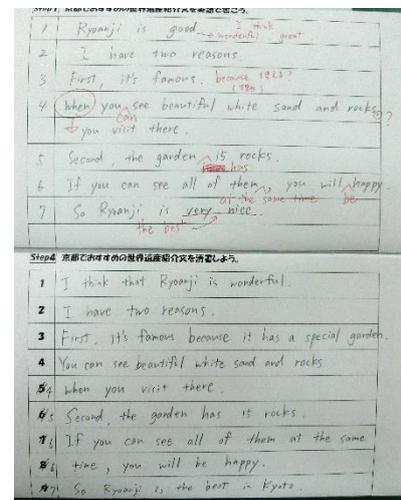
実践①においては、計4時間1分間チャットを授業に取り入れたが、最初は初めて行う取組であったために、1分間ほとんど何もやりとりできないまま終わることもあった。そのため、スムーズにやりとりを行うことができるようにするために、挨拶や相づち英語を提示し、再度取り組ませた。その結果、少しずつやりとりを続けることができるようになってきた。しかし、1分間持続できないペアが多かったり、やりとりがテーマからずれたり、目標言語材料を上手く活用できなかったりと課題が見られた。その後の書く活動やシェアリングにおいても、やりとりから得た知識等を活用した記述は見られなかった。

実践②においても計4時間、1分間チャットを授業に取り入れたが、挨拶や相づち英語の他に、疑問詞を使った質問を取り入れることで、Yes や No 以外の答えが得られ、その中のキーワードからさらにやりとりを広げられることを、T2 や ALT とのデモンストレーションから提示した。そのため、実践①での、お互いの意見を言い合っただけでなく、インタビュー形式で質問をし、そこから話が広がっていく様子が見られた。しかし、その後の書く活動やシェアリングにおいて活用できたかという点では、書くことが得意な生徒と苦手な生徒で差が大きく、不十分であった。

以上のことから、ただ単純に「即興的なやりとり」ができるようにするだけのためには、「1分間チャット」は有効であると考えられる。しかし、技能統合という視点では、本実践からは実証することはできなかった。それは、「話すこと（やりとり）」「書くこと」「話すこと（発表）」2技能3領域それぞれの力が十分に身につけておらず、「1分間チャット」から得た知識等を書く活動に活用したいが、書くことが苦手なために書くことができず、見取り、評価ができなかったためである。

### (2) 「シェアリング」の有効性について

資料2から分かるように、2つの実践ともにシェア



資料2 シェアリングにおける記述の変容

リングをする前と後では、「文構造や語句の修正」「生徒の考えの広がり」の2点において変容が見られた。

シェアリングを取り入れる前は、書くことを苦手とする生徒には最終的には教師が個別指導をして、支援していたが、シェアリングを取り入れることで、教師が支援することなく書くことができていた。このことから、「シェアリング」は「話すこと（やりとり）」から得た知識等を「書くこと」や「話すこと（発表）」に結びつけ、自分の考えを表現できる生徒を育てるために有効であると考えられる。

## 9 成果と今後の課題

### (1) 成果

○ 技能を統合させた一連の活動における「シェアリング」の活用は、「話すこと（やりとり）」から得た知識等を「書くこと」や「話すこと（発表）」に結びつけ、自分の考えを表現させる上で、有効であったと考えられる。特に、書く活動において、「シェアリング」を活用することは、書くことを苦手とする生徒の関心・意欲・態度を持続させるとともに、書くことが得意な生徒にも、自分の考えを広げ、深めることができるため有効であると考えられる。

○ 本主題の達成のための手立てが有効であったかどうかは別として、4技能5領域の総合的な指導を通して、それらを統合的に活用することができるようにすることを目指したことにより、1学期の実態調査の結果に比べ、2学期の実態調査では下がった技能もあったが、4技能5領域をバランスよく身につけることができた。

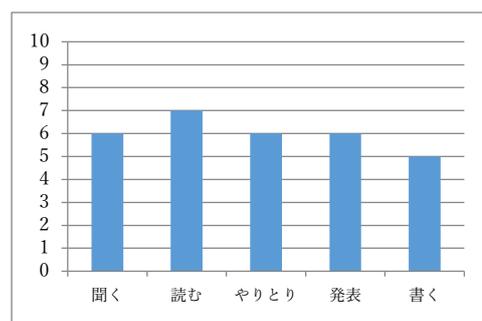


図2 2学期定期考査・パフォーマンステスト結果

(図2)

○ 「1分間チャット」の導入当初は、1分間ほとんど何もやりとりすることができなかった生徒たちが、やりとりを持続させるための方法等を提示し、何度も反復して練習させることで、1分間とまでは言わないが、即興的なやりとりができるようになってきた。そのため、「1分間チャット」を活用することは、新学習指導要領で特に求められている「話すこと（やりとり）」の即興的なやりとりができるようにする上で、有効であったと考えられる。今後はその技能領域を他の技能領域と関連づけることが求められる。

### (2) 今後の課題

○ 「書くこと」を苦手とする生徒が極端に多かったため、「話すこと（やりとり）」から得た知識等を書く活動に活用したいが、できない生徒が多く見られた。そのため、今後も継続して「1分間チャット」を取り入れるとともに、「書くこと」ができるようにするための新たな手立てを講じる必要があると考える。

○ 目標言語材料の内容によっては、1単位時間で文法導入や1分間チャット、書く活動、シェアリング等全ての活動を盛り込むことは生徒にとって負担が大きく、その後の定着が十分ではなかったものもあった。そのため、言語材料に応じた言語活動を選

択する必要があると考える。

- 本主題では、「話すこと（やりとり）」「書くこと」「話すこと（発表）」の2技能3領域において技能統合を意識した学習を取り入れたが、これらを「聞くこと」「読むこと」とも関連づけて学習させることで、4技能5領域の技能統合が実現されると考える。